

IV-2-4 九州

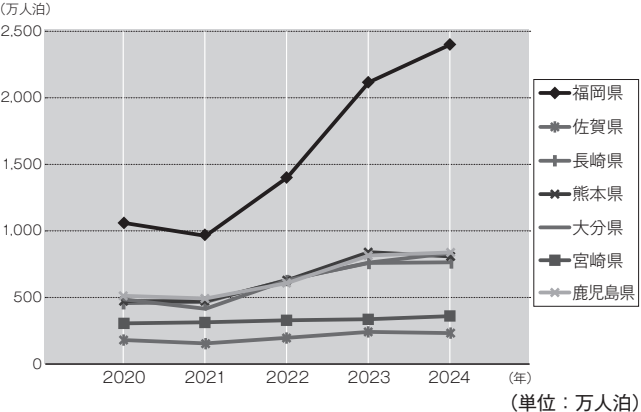
九州の官民一体で取り組む「第三期九州観光戦略」の策定  
複合施設「長崎スタジアムシティ」の開業  
JR九州高速船の事業撤退(博多－釜山航路の廃止)

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2024年1月から12月の九州各県の延べ宿泊者数は、九州全体では6,233万人泊となり、前年比6.2%増となった(図Ⅳ-2-4-1)。佐賀県・熊本県以外で延べ宿泊者数は増加し、増加率の多い順で、福岡県(13.4%増)、大分県(9.2%増)、宮崎県(6.9%増)、鹿児島県(2.8%増)、長崎県(0.6%増)となった。一方で、熊本県(3.8%減)、佐賀県(3.5%減)の延べ宿泊者数は減少した。

九州全体では、2023年に2019年の延べ宿泊者数5,869万人と同程度に回復、2019年比では6.2%増となったが、佐賀県で同16.3%減、宮崎県で同16.5%減とコロナ禍前まで回復できていない。

図Ⅳ-2-4-1 延べ宿泊者数の推移(九州)



| 都道府県名 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 福岡県   | 1,059 | 962   | 1,399 | 2,112 | 2,395 |
| 佐賀県   | 182   | 157   | 199   | 243   | 234   |
| 長崎県   | 458   | 467   | 634   | 759   | 764   |
| 熊本県   | 473   | 474   | 630   | 840   | 808   |
| 大分県   | 486   | 416   | 630   | 762   | 833   |
| 宮崎県   | 307   | 315   | 330   | 338   | 361   |
| 鹿児島県  | 513   | 493   | 609   | 815   | 838   |

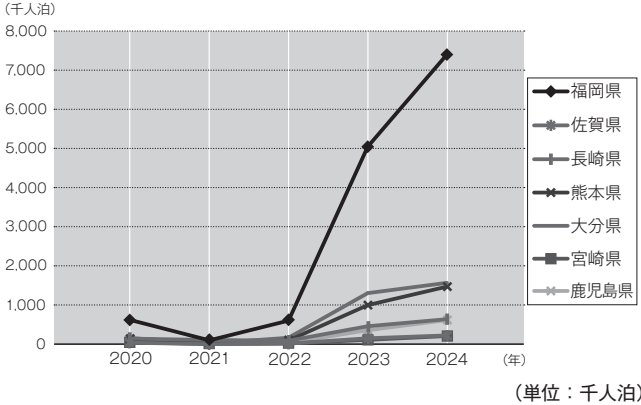
資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

外国人延べ宿泊者数は、九州全体では12,132千人泊で、前年比43.7%増となった(図Ⅳ-2-4-2)。九州内すべての県で延べ宿泊者数は増加しており、増加率の多い順では、宮崎県(83.0%増)、鹿児島県(71.5%増)、熊本県(47.1%増)、佐賀県(46.9%増)、福岡県(46.6%増)、長崎県(38.8%増)、大分県(20.0%増)となった。

国際路線の再開や就航により、九州全体の訪日外国人延べ宿泊者数は2019年比39.7%増と回復しているが、佐賀県において同

36.2%減、長崎県において同14.6%減、宮崎県において同34.7%減、鹿児島県において同26.2%減という状況で、コロナ禍前まで回復できておらず、福岡県・熊本県・大分県の3県で九州における2024年訪日外国人延べ宿泊者数の85.9%を占める3県集中型になっている。

図Ⅳ-2-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(九州)



| 都道府県名 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 福岡県   | 623   | 104   | 606   | 5,038 | 7,386 |
| 佐賀県   | 42    | 7     | 20    | 156   | 229   |
| 長崎県   | 148   | 112   | 95    | 463   | 643   |
| 熊本県   | 140   | 36    | 100   | 1,001 | 1,472 |
| 大分県   | 162   | 25    | 170   | 1,307 | 1,569 |
| 宮崎県   | 53    | 10    | 23    | 116   | 213   |
| 鹿児島県  | 121   | 16    | 38    | 362   | 620   |

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

●「第三期九州観光戦略」の策定

九州地方知事会と九州経済団体で構成される九州地域戦略会議の下部組織である九州観光戦略委員会により、2024年度から2030年度を計画期間とする「第三期九州観光戦略」が策定された。“住んでよし、訪れてよし、働いてよし”をテーマに、「世界中から選ばれる『KYUSHU』を目指し、ブランディングを強化する」、「九州ならではの観光資源の創出・魅力向上や受け入れ環境の整備により、誘客・リピーターを拡大する」、「デジタル技術の活用による、観光産業の高度化に取り組む」、「九州に関わるすべての人がひとつとなり、持続可能な観光(観光SDGs)を実現する」という4つの基本方針のもと、官民一体となって戦略に取り組むこととしている。数値目標としては、①観光消費額(訪日外国人、日本人)、②延べ宿泊者数(訪日外国人、日本人)、③九州へのリピーター率(訪日外国人：アジア・欧米豪、日本人)を掲げている。「第三期九州観光戦略」では、「第二期九州観光戦略」の数値目標であった訪日外国人客数を取りやめ、新たに九州へのリピーター率を設定し、リピーターの獲得に重点を置いた。

2024年度から2026年度までの第1次アクションプランでは、重点施策として「ツール・ド・九州」や大阪・関西万博等の「大規模イベント等を活用した九州の魅力発信」や九州MaaS等による「サステナブルで快適な周遊を促進する仕組み・システム構築」、ガイド育成等を行う「担い手の確保・育成・定着」を掲げている。

表Ⅳ-2-4-1 「第三期九州観光戦略」の概要

| テーマ  | 住んでよし、訪れてよし、働いてよし                               |                             |
|------|-------------------------------------------------|-----------------------------|
| 計画期間 | 2024年度～2030年度                                   |                             |
| 基本方針 | ①世界中から選ばれる「KYUSHU」を目指し、ブランディングを強化する             |                             |
|      | ②九州ならではの観光資源の創出・魅力向上や受け入れ環境の整備により、誘客・リピーターを拡大する |                             |
|      | ③デジタル技術の活用による、観光産業の高度化に取り組む                     |                             |
|      | ④九州に関わるすべての人がひとつとなり、持続可能な観光(観光SDGs)を実現する        |                             |
| 戦略   | 柱                                               | 第1次アクションプランの主な取り組み          |
|      | I 誘客促進戦略                                        | 大規模イベント等を活用した九州の魅力発信        |
|      | II 観光資源戦略                                       | 高付加価値商品の開発                  |
|      | III 受け入れ環境整備戦略                                  | サステナブルで快適な周遊を促進する仕組み・システム構築 |
|      | IV 観光産業活性化戦略                                    | 担い手の確保・育成・定着                |
| 数値目標 | 2030年目標                                         |                             |
|      | 観光消費額：4兆円(訪日外国人1.2兆円、日本人2.8兆円)                  |                             |
|      | 延べ宿泊者数：7,305万人泊(訪日外国人2,054万人泊、日本人5,251万人泊)      |                             |
|      | 九州へのリピーター率：アジア47%、欧米豪24%、日本人65%                 |                             |

資料：「第三期九州観光戦略」をもとに筆者作成

### ●九州MaaSの取り組み開始

九州のさまざまな公共交通の経路検索・予約・決済、観光やイベント、小売りの情報等を一体化させ、利用者にワンストップの移動サービスを提供する「九州MaaS」の取り組みが始まった。九州地域戦略会議において上記の計画が承認され、九州各県や経済団体、民間事業者が参画する一般社団法人九州MaaS協議会が2024年4月に設立された。

主な事業として、トヨタファイナンスサービスが開発・提供するアプリ「my route」において、多様な交通での経路検索・予約・決済サービスの提供や交通と商業施設が連携したお得なデジタルチケットの販売等を行っている。

### ●九州・たびたびの旅キャンペーン2024の実施

一般社団法人九州観光機構(以下、九州観光機構)は、九州へのリピーターを獲得し、観光消費を促進させることを目的として「九州・たびたびの旅キャンペーン2024」を実施した。このキャンペーンでは、2024年10月1日から12月31日に対象宿泊施設に宿泊すると一人1泊につき1ポイントを獲得でき、3ポイント貯めると2025年1月6日から3月30日の期間に利用できる「たびたびクーポン」3,000円分を進呈した。「たびたびクーポン」は、対象店舗となっている宿泊施設・飲食店・土産店等で利用でき、リピーターにとってお得に旅行ができるもので、6,924枚の電子クーポンの発行となった。

### ●九州観光アプリ「きゅーちゃんのわくわく九州塾」開始

九州観光機構は、九州のファン獲得とコミュニケーション活性化を目的に、2024年4月に九州観光アプリ「きゅーちゃんのわくわく九州塾」のサービスを開始した(図Ⅳ-2-4-3)。アプリに会員登録し、対象施設を来訪するとGPSによりポイントが付与され、ポイント利用対象施設ではポイントに応じたサービスを受けることができる等の機能を搭載。2025年3月で約2万件のダウンロードとなった。また、2024年度はこのアプリ上で、生成AIを活用し、利用者の目的・好みに合わせた最適な旅行を進めるサービスの実証実験を実施した。なお、生成AIによるモデルルートは、2024年度実証実験でのみ実施し、2025年度の事業では実施していない。

図Ⅳ-2-4-3  
「きゅーちゃんのわくわく九州塾」



提供：(一社)九州観光機構

### ●「西のゴールデンルート」設立

訪日外国人観光客の西日本・九州への誘客を図るため、西日本・九州が一体となり、地域の魅力の発信・プロモーションに取り組む「西のゴールデンルート」が設立され、2024年5月に福岡県福岡市内で設立総会が開催された。

2024年11月には、ゴールデンルートに集中している欧米豪旅行客の西日本・九州への誘客を促すため、11のモデルルートを作成。訪日初心者がゴールデンルートに加えて西日本・九州を来訪することをイメージした3～4日程度のショートルート(8ルート)と訪日リピーターが西日本・九州を来訪することをイメージした2週間ほどのロングルート(3ルート)を発表した。

### ●「第三次福岡県観光振興指針」の策定(福岡県)

福岡県では、「第三次福岡県観光振興指針」が策定された。「つながる」福岡観光をテーマに、「回復するインバウンド需要の本件への着実な取り組み」、「リピーターの確保と県内の周遊促進」、「観光DXの推進」、「持続可能な観光(観光SDGs)の推進」を基本戦略として、2024年度から2026年度に取り組む施策と目標値が記載されている。この計画は、前述の「第三期九州観光戦略」第1次アクションプラン(以下、アクションプラン)と足並みを揃えるため、アクションプランと同様の計画期間とし、目標値としてリピーター率が設定されている。

### ●福岡・大分デスティネーションキャンペーンの開催(福岡県・大分県)

2024年4月から6月に福岡県・大分県・JRグループにより「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」(以下、DC)が開催された。福岡県では25年ぶりの開催となった。

キャッチコピーは「至福の旅! 大吉の旅! 福岡・大分」とし、アフターコロナ時代における新たな魅力づくりへの挑戦や持続可能な観光の実現を目指す「観光産業の復活と新たなステージへの挑戦」、福岡県と大分県の関連する素材をひとつの物語として提案する「福岡・大分連携による感動の最大化」、地元住民

表Ⅳ-2-4-2 「第三次福岡県観光振興指針」の概要

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 目指す姿        | 「つながる」福岡観光                 |
| 計画期間        | 2024年度～2026年度              |
| 基本戦略        | 1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取り込み |
|             | 2 リピーターの確保と県内の周遊促進         |
|             | 3 観光DXの推進                  |
|             | 4 持続可能な観光(観光SDGs)の推進       |
| 施策の柱        | 1 受け入れ環境の充実                |
|             | 2 観光資源の魅力向上                |
|             | 3 戦略的なプロモーション              |
|             | 4 観光振興の体制強化                |
| 目標値<br>(種類) | 延べ宿泊者数(日本人、外国人)            |
|             | 旅行消費額(日本人、外国人)             |
|             | 旅行消費単価(日本人、通常入国外国人)        |
|             | リピーター率(アジア、欧米豪、日本人)        |

資料:「第三次福岡県観光振興指針」をもとに筆者作成

が地域の魅力を再発見する機会とする「地域の魅力の再発見と愛着を育むおもてなしの実現」を基本方針として展開された。

期間中の主な取り組みとして、福岡県では、県内周遊バスツアー「よかバス」を開始した。県内の二次交通が不便な箇所を含む観光施設等を周遊でき、DC 期間中には6,880名がツアーに参加した。この取り組みはDC 後も、専用サイトでツアー販売が継続されている。大分県では、DC 期間中に「OITA CULTURAL EXPO! '24」が開催され、国内外のアーティストによる展示会やイベントが県内各地で開催された。また、JR九州は、新たなD&S列車(デザイン&ストーリー列車)として、福岡県・博多駅～大分県・別府駅間を一日1往復する特急「かんばち・いちろく」の運行を開始した。コンセプトは「ゆふ高原線の風土をあじわう列車」で、運行コース、曜日ごとに異なる福岡県・大分県の料理人が作る食事を味わうことができる。

なお、DC 期間における経済波及効果は、目標であった350億円(福岡県230億円、大分県120億円)を上回り、502億円(福岡県356億円、大分県146億円)であった。

●JR九州高速船の事業撤退(福岡県)

2024年8月、国土交通省の監査において、JR九州高速船が、福岡市と韓国釜山を結ぶ定期航路「クイーンビートル」船首内部の浸水を把握しながら事実を隠蔽し、運航していた事実が判明した。「クイーンビートル」の運航再開に向けて安全管理体制の見直しや船体のハード対策を検討してきたが、2024年12月に船舶事業から撤退することを決定した。これにより、1991年から運航されてきたJR九州グループによる日韓航路は廃止となった。

●「長崎スタジアムシティ」の開業(長崎県)

2024年10月、長崎市中心部に「長崎スタジアムシティ」が開業した。「長崎スタジアムシティ」は、長崎県に本社を置くジャパネットホールディングスのグループ会社で、地域創生事業を担うリージョナルクリエイション長崎による複合施設で、サッカースタジアムを中心に、宿泊施設や商業施設等で構成される。宿泊施設である「スタジアムシティホテル長崎」は、計243室の客室を有し、スタジアムビューの客室や大浴場、館内プールから、サッカースタジアムを見下ろすことができる。

また、オフィス棟と商業棟の屋上を結ぶ全長258メートルのジップラインがあり、サッカースタジアム上空を通過することができる等、ユニークな体験が可能になっている。

●「ようこそくまもと観光立県推進計画」の策定(熊本県)

熊本県は、5期目となる「ようこそくまもと観光立県推進計画(2024年度-2027年度)」を策定した。基本目標を「日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”～地域が輝く、活力に満ちた観光地域づくり～」とし、「観光と熊本の強みを掛け合わせた“くまもとらしさ”の探求」、「上質な“トキ”と機会の創出」、「観光産業を柱とした創造的復興の実現」の3つの基本的な方針のもと戦略を実行していくこととしている。

表Ⅳ-2-4-3 「ようこそくまもと観光立県推進計画」の概要

|        |                                              |
|--------|----------------------------------------------|
| 目指す姿   | 日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”～地域が輝く、活力に満ちた観光地域づくり～ |
| 計画期間   | 2024年度～2027年度                                |
| 基本的な方針 | 1 観光と熊本の強みを掛け合わせた“くまもとらしさ”の探求                |
|        | 2 上質な“トキ”と機会の創出                              |
|        | 3 観光産業を柱とした創造的復興の実現                          |
| 戦略     | I 観光資源・コンテンツの魅力向上                            |
|        | II 戦略的なプロモーション                               |
|        | III 受け入れ環境整備                                 |
|        | IV 観光産業基盤強化・活性化                              |
| 目標値    | 観光消費額                                        |

資料:「ようこそくまもと観光立県推進計画」をもとに筆者作成

●ホーバークラフトを使った別府湾周遊の開始(大分県)

大分県では、2024年11月より、ホーバークラフトを使って別府湾を周遊する便が就航された。ホーバークラフトは、プロペラで船体下部に空気を噴出して浮かせ、陸地や海上を移動する水陸両用の乗り物で、大分市と大分空港を結ぶ定期航路として1971年から2009年まで運航していた。大分県は、大分空港の利用が増加したこと、海上アクセスにより大分空港と大分市間の移動に要する時間が大幅に改善され利便性が向上することから、県が船を所有し、運航を民間事業者(大分第一ホーバードライブ)が行う上下分離式での導入を決定した。

空港航路は当初2024年3月に開始する予定であったが、訓練中に事故が起きたことから就航を遅らせ、前述の別府湾周遊により操縦訓練を積むこととした。空港航路は2025年7月に運航が開始され、2025年8月時点で別府湾周遊は不定期で実施されている。

●シーガイアの米ファンドへの売却とリブランド(宮崎県)

セガサミーホールディングスは、宮崎市の大型リゾート施設「フェニックス・シーガイア・リゾート」(以下、シーガイア)を米投資ファンドのフォートレス・インベストメント・グループに売却した。2024年6月、新経営陣により、シーガイアの長期保有と、ファミリー層の開拓に向けた、キッズスペース新設やプールのキッズ対応の充実、温浴施設の改装等が発表された。また、米マリOTTグループとのフランチャイズ契約を解除し、2025年6月にシェラトン等、3宿泊施設の名称を変更しリブランドされた。これにより、「シェラトン・グランデ・オーシャ

ンリゾート」を「フェニックス・シーガイア・オーシャン・タワー」に、「ラグゼー ツ葉」を「シーガイア・フォレスト・コンドミニウム」に、「コテージ・ヒムカ」を「シーガイア・フォレスト・コテージ」に名称変更し、すべての施設でシーガイア名称が復活。一体感のあるリゾートとして運営されることとなった。

## ②広域・市区町村レベル

### ●九州各地の新規宿泊施設の開業状況

福岡県福岡市に、2024年3月に「seven x seven（セブンバイセブン）糸島」が開業した。客室は47室で、全室オーシャンビューのテラス付き。ルーフトップテラスや専用ジャクジー、BBQ Grill等の設備がある。

長崎県長崎市では、2024年1月に「長崎マリオットホテル」が開業した。マリオットホテルは、九州初進出で、国内で9軒目となる。運営はJR九州グループであるJR九州ホテルマネジメントが米マリオット・インターナショナルと提携して行う。207室（ゲストルーム179室、スイート28室）を備える。また、前述のとおり、2024年10月に「長崎スタジアムシティ」内に「スタジアムシティホテル長崎」が開業。2024年12月には、「ホテルインディゴ長崎グラバーストリート」が開業。ホテルインディゴとしては日本で5軒目、九州では初上陸となる。このホテルは、築126年の歴史を誇る長崎のランドマーク「旧マリア園」をリノベーションしたもので、外壁のレンガや聖堂のステンドグラス等を当時のまま活かした宿泊施設になっている。「旧マリア園」は、1898年に建設された赤レンガ造りの修道院で、聖堂はレストランに改装された。

熊本県熊本市では、2020年よりラグジュアリーライフスタイルホテルにリブランドし改装を進めていた「ザ・ニューホテル熊本」が、2024年12月に「ワン・ステーションホテル熊本」としてリニューアルした。改装によりラグジュアリーフロアを設置し、専用のフリーフローラウンジを設置。1階のロビーはコワーキングスペースとして利用でき、定期的なワークショップやライブ、DJブースを使ったイベントを開催している。

宮崎県宮崎市では、2024年2月に「プリンス スマート イン 宮崎」が開業した。プリンス スマート インは、西武・プリンスホテルズワールドワイドが展開する宿泊特化型ホテルで、宮崎市内の都市機能の中心となっている場所に位置し、163室を有する。2024年4月には、「ガーデンテラス宮崎 ホテル&リゾート」が「THE MEIBIA MIYAZAKI」に名称変更し屋外プールを併設した新館をオープンさせた。新館は全18室で、各部屋には屋内ジャクジーが備えられている。

鹿児島県霧島市には、2024年2月に、焼酎メーカーのきりしま高原麦酒と親会社である種麴屋の河内源一郎商店が運営する「麴・発酵ホテル」がオープンした。すべて麴を使った食事と汲みたての焼酎やできたてのビール等の飲料だけでなく、麴や食に関するワークショップ等により麴の伝統と発酵文化を体験できる施設となっている。

2024年4月、フランスのホテル運営会社アコーにより、旧ダイワロイヤルホテルがリブランドされ、福岡県宗像市に「メルキュール福岡宗像リゾート&スパ」、佐賀県唐津市に「メルキュール佐賀唐津リゾート」、大分県日出町に「グランドメルキュール別府湾リゾート&スパ」がオープンした。

### ●2024年に新たに登録された観光地域づくり法人(DMO)

九州内では2024年に、公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー（福岡県福岡市）、一般社団法人雲仙観光局（長崎県雲仙市）、一般社団法人日田市観光協会（大分県日田市）、公益財団法人鹿児島観光コンベンション協会（鹿児島県鹿児島市）が新たにDMOに登録され、九州の登録観光地域づくり法人は計44件（広域連携DMO1件、地域連携DMO13件、地域DMO30件）となった。

表Ⅳ-2-4-4 2024年に登録された九州内のDMO一覧

| 区分 | 名称                   | 所管エリア    | DMO登録日    |
|----|----------------------|----------|-----------|
| 地域 | (公財)福岡観光コンベンションビューロー | 福岡県福岡市   | 2024.3.29 |
| 地域 | (一社)雲仙観光局            | 長崎県雲仙市   | 2024.9.24 |
| 地域 | (一社)日田市観光協会          | 大分県日田市   | 2024.9.24 |
| 地域 | (公財)鹿児島観光コンベンション協会   | 鹿児島県鹿児島市 | 2024.3.29 |

資料：観光庁のウェブサイトをもとに筆者作成

### ●北九州市に国内初のハイブリッド電動旅客船が就航(福岡県)

2024年4月に北九州市で、水素とバイオディーゼル燃料を使って発電した電気で動くハイブリッド型旅客船「HANARIA」（船舶所有者：MOTENA-Sea、運航者：関門汽船）が就航した。国内初の電動旅客船で、化石燃料で動く船と比較してCO<sub>2</sub>排出量を53～100%削減することが可能となる。「HANARIA」は、洋上風力発電施設への人員運搬を目的に開発されたが、当面は北九州市の小倉港、門司港を発着する観光船として活用される。通常運航されているクルーズは、「洋上参拝クルーズ」や「関門海峡クルーズ」、「工場夜景クルーズ」等。客室は2階建てで、1階のフロアキャビンの前方には98インチの大型モニターとプロジェクターが設置されており、イベントや会議の会場としての使用も可能である。

### ●「唐津市玄海海中展望塔」がリニューアル(佐賀県)

「唐津市玄海海中展望塔」は、2024年4月にリニューアルオープンした。展望塔は、水深7メートルの海中展望室では、海中窓から玄界灘の海中の様子を目前に見ることができる。今回のリニューアルでは、展望塔内全周をスクリーンとし、プロジェクションマッピングによる映像、照明、音響により海中にいたようなショーを体験することができるようになった。

### ●「“ほっと、みやざき”宿泊応援キャンペーン」の実施(宮崎県)

2024年8月に発生した日向灘地震によりキャンセル等の影響があった宿泊施設をはじめとした市内観光の回復を図ることを目的とし、宮崎市では「“ほっと、みやざき”宿泊応援キャンペーン」が実施された。このキャンペーンは2024年12月1日から2025年2月1日までの期間中に宮崎市内の対象施設に宿泊した県外・国外に居住する旅行者を対象に、一人1滞在につき、宿泊料金全体額の2分の1(最大5,000円)の補助を行った。

(一般社団法人九州観光機構 野間恵子)